

釜石市防災市民憲章
命を守る

備える

逃げる

戻らない

語り継ぐ

命を守る 「備える」「逃げる」「戻らない」「語り継ぐ」

視察研修先 うのすまい・トモス「釜石市防災市民憲章碑」



会報 防災だより

2020
VOL.24

3月31日発行

CONTENTS

- | | | |
|--------------------|-------------|-------|
| 1. ご挨拶 | 会長 齊藤 浩 | 2P |
| 2. 地域防災意識の向上 | 八戸部会長 北向 幸吉 | 3P |
| 3. 防災フェスタ2019開催 | | 4P |
| 4. 災害時要援護者支援事業 | | 4P |
| 5. 視察研修 | | 5P |
| 6. 全体研修会 | | 6P |
| 7. 甲種防火管理再講習開催（後援） | | 6P |
| 8. 各部会研修会 | | 6P～8P |



ご挨拶

八戸地域防災協会
会長 齊藤 浩

昨年の暮れに、訃報が飛び込んできました。枚方市・寝屋川市防火協会連絡協議会の岡本利郭名誉会長が

昨年12月30日に、ご逝去されました。

大阪府の枚方市・寝屋川市防火協会連絡協議会とは、八戸地域防災協会

(以下、本協会)の前身団体の一つであった八戸地域広域防火管理者協会が昭和60年3月に友好姉妹協会として締結しております。その連絡協

議会の会長として長らくご活躍されて

いました。

平成24年3月には、枚方市・寝屋川市防火協会連絡協議会設立60周年

記念式典に本協会の役員が出席させて

頂きました。そのとき大変お世話

は、八戸が大好き」が口癖で豪快な、お人柄でした。平成25年8月の本協会5周年記念式典の際は来八され、

ご出席頂きました。昨年の10周年記念式典で再会を楽しみにして

ましたが直前に体調を崩され、残念ながら叶いませんでした。謹んでご冥

福をお祈り申し上げます。

さて、今年はオリンピックイヤーとなります。1964(昭和39)年の第18回東京オリンピックは戦争で

焼け野原だった日本が僅か19年余りで開催、当時は奇跡の復興と称賛さ

れました。日本国民が自信と誇り、そして栄光を得ることになりました。

10月10日、世界の94か国の選手団の

開会式が行われた国立競技場の空に

五輪のシンボルの輪、電光掲示板には「オリンピックで重要なことは勝つことではなく、参加することである」というクーベルタン男爵のオリンピック精神が映し出されたことを思い出します。

夢の超特急・東海道新幹線、羽田モノレール、首都高速道路の開通など高度経済成長の「良き日本」でした。また、テレビ・洗濯機・冷蔵庫(家庭の三種の神器といわれた)が各家

庭に普及し始め生活が豊かになって

いく実感がありました。映画の『ALWAYS 三丁目の夕日'64』を見

たときには、とても懐かしく感じました。当時、小学生だった私は、日

本の選手の活躍に胸躍らせ、テレビを夢中で観ていました。オリンピッ

ク期間は、ほとんど授業はなく先生も児童も一緒になって世紀のスポー

ツの祭典を楽しんだものでした。

大松博文監督が率いる東洋の魔女、強敵ソ連(現ロシア)を破り金メダル。マラソン2連覇のアベベ、国立競技場内に2位で入ってきた円谷幸吉選手がイギリスのヒートリー選手に抜かれ銅メダル。体操では、チェコスロバキアのチャスラフスカ選手の華麗なる演技。柔道の無差別級決勝戦でオランダのヘーシンクに敗れた神永選手等々。

あれから56年が経ち令和2年を迎えました。今回の東京オリンピック・パラリンピックではどのようなドラマ

マが展開され、感動があるのでしょうか。今からとっても楽しみです。

会員の皆様、今年もよろしく願い致します。令和2年が八戸地域にとって災害のない穏やかな一年でありますよう心からご祈念申し上げます。



地域防災意識の向上

八戸地域防災協会
八戸部会長 北向 幸吉

八戸部会の部会長を仰せつかつて
おります北向と申します。

会員の皆様には日頃何かとお世話
になっております。

平成20年4月八戸地域防災協会が
設立され10周年を迎え、更なる会員
の結束と活動の充実を図るため業態
別部会の見直しが検討され、平成31
年度総会にて会則が改正され、八戸
部会、八戸東部会、三戸部会、五戸
部会、おいらせ部会の消防署別の5
部会の編成となり、地域と密着した
活動が出来る体制となりました。

八戸消防本部の外郭団体の会員と
して約40年、その中で良く耳にした
のは「公助、自助、共助」の言葉で
あり、大きな災害では公助には限界

がある、大事なものは地域住民の理解
と協力が必要とのことでありませ

八戸地域防災協会結成の準備が進
んでいた頃、自分も防災に對しての

意識が少し高まっている時でありま
した。当時根城地区連合町内会の事
務局長を務めていたのでこの地域に
自主防災会を設立出来ないか、八戸
市の防災担当課を訪れ参考資料を頂
き、地域の実態に合わせた会則や細
則、そして組織や防災活動の原案を
作成し根城地区連合町内会の承認を
得て平成20年11月に根城地区連合町
内会自主防災会が発足しました。

当自主防災会について紹介させて
頂きます。目的は「災害による被害
の防止及び軽減を図ること」であり

ますが、大切なことはいかに機能出
来るか、そのための組織と訓練を明
確にして住民の賛同と協力を得られ
るかであります。その為に町内会別
に5つの活動班を設置し年数回の班
リーダー会議、訓練前の事前会議等
を重ね毎年防災訓練を実施しており
ます。

訓練は根城公民館、根城小学校等
で八戸消防署根城分遣所の指導、協
力を得て主に体験型の訓練を行なっ
て参りましたが、平成23年3月11日
発災の東日本大震災を教訓に、実践
型訓練の必要性を痛感し、地域住民
の中から実践型指導者を求め探し当
てたのは、元八戸消防署署長の岩間
祥郎氏であります。

さっそく岩間氏に自主防災会会長
に就任頂き、毎年根城中学校を会場
に全生徒と地域住民が一体となった
実践型訓練を実施、一昨年から女性

部の協力を得て700人分の炊き出しま
で行なうハードなものであります。
自主防災会発足後初めて活動した
のは、東日本大震災であり避難所と
なった根城公民館に2日間寝泊りし
たことが思い出されます。自然災害
が多い昨今地域住民の防災意識の向
上を願って止みません。

八戸地域防災協会が、防災活動を
通し地域社会の福祉の増進に寄与で
きることを願うものであります。



防災フェスタ開催



令和元年10月9日(水)、「防災フェスタ2019」が八戸市体育館において開催されました。

このイベントは、当協会、八戸地域幼年消防クラブ育成協議会及び八戸消防本部が共催し、地域の各防災団体が一堂に会し連携を深め、防災体制の一層の充実を図ることを目的とし



て隔年で行われているものです。当協会を含め約1,400名が参加する中、消防ラッパ隊の勇壮な行進で幕を開け、第一部に式典、第二部では、アトラクションが行われました。



アトラクション

では、幼年消防クラブ員(20クラブ485名)が和太鼓、遊戯、よさこいソーラン、鼓笛隊演奏、ミニポンプ車操法、はしご乗りなど、9つのアトラクションに分かれて演技を行い、さらに幼年クラブ員全員が声を合わせ「火遊びしません 火の用心」と元気に誓いました。



第二部の最後には女性消防クラブ員71名が、家庭あんしん音頭(消防職員作詞・作曲)に合わせて踊りを披露し、住宅用火災警報器の設置促進PRを行いました。

さまざまな演出と迫力のある演技などに対して、会場内からは大きな拍手と歓声が沸き上がり、大盛況のうちに幕を閉じました。



災害時要援護者支援事業

令和元年11月5日・7日・8日の3日間、各市町村担当課、民生委員、八戸電気工業業協同組合、協同組合八戸管工事協会及び㈱ユアテック八戸営業所の協力のもと、高齢者世帯及び障害者世帯に住宅用火災警報器の寄贈・設置事業を行いました。

今年度は、八戸市、階上町及び三戸町の61世帯に対し、住宅用火災警報器(計84個)の寄贈設置、さらに火気使用機器及び水回りの点検整備とあわせて、タコ足配線や火気取扱いなどの注意を呼びかけました。

この事業は、社会福祉事業の一環として実施しており、住宅火災から高齢者などの災害時要援護者の犠牲を減らし、安全で暮らしやすい日常生活の維持に寄与するとともに、災害のない明るい街づくりの推進を目的としています。

来年度以降も、計画的に実施する予定です。会の御協力をお願いいたします。



視察研修

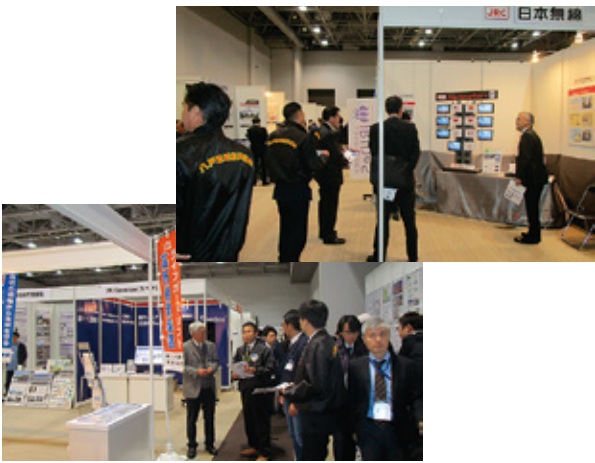
令和元年11月11日、12日の1泊2日で仙台市及び釜石市視察に25名が参加しました。

視察研修を終えて



東北医療福祉事業協同組合
総務部 総務担当課長
松橋 伸太

今回「八戸地域防災協会」の視察研修に初めて参加させていただきました。初日（11月11日）は仙台国際センターで「第10回震災対策技術展」を見学しました。



見学を終え、宿泊先の松島へ移動、2日目（11月12日）は岩手県釜石市の「うのすまい・トモス」を見学しました。2日間ではありましたがとても充実した研修でした。

その中で特に印象に残った2日目の釜石市「うのすまい・トモス」についての感想を記したいと思います。

釜石市では2011年（平成23年）3月11日、午後2時46分に発生した東日本大震災により、1,000人を超える尊い命を喪いました。報道等でも知られているように、津



波の規模は想定をはるかに超えるものであり、津波が引いた後に残されたのは瓦礫に埋め尽くされ変わり果てた街の風景でした。私たち



の住む八戸市でもかつて体験したことのない規模の地震に襲われましたが、釜石市での想像を絶する被害状況を体験者の方から直接お聞きし、言葉も出ませんでした。

今回見学させていただいた施設「うのすまい・トモス」は、東日本大震災の記憶や教訓を将来に伝えるとともに、生きることの大切さや素晴らしさを感じることが出来ます。

複数の公共施設を一体的に配置し、憩い親しめる場として、まさに地域活動や観光交流を振興する施設です。

災害は時間や場所を選びません。将来起こる可能性がある災害に対し多くの教訓を生かしていかなければならないと強く感じました。特に、医療・介護施設ではより高い防災意

識を持つことが必要です。

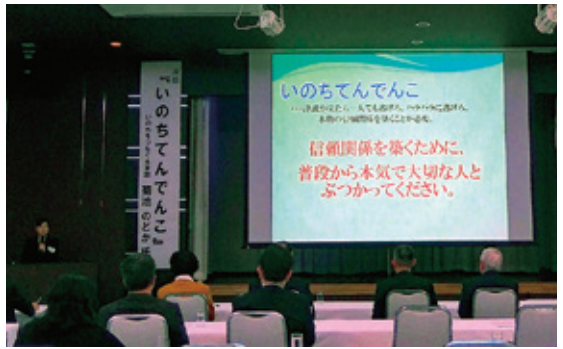
釜石市防災市民憲章に刻まれている「備える、逃げる、戻らない、語り継ぐ」を忘れることなく今後の防災活動に役立っていきたいと思います。



最後に視察研修を企画していただいた八戸地域防災協会及び会員の皆様、そして八戸地域広域市町村圏事務組合消防本部の皆様に感謝申し上げます。ありがとうございました。



全体研修会



令和元年12月6日（金）、きざん八戸において、菊池のどか氏（いのちをつなぐ未来館）を講師にお招きし、全体研修会を実施しました。



講師 菊池のどか氏

菊池氏は、「いのちでんでんこ」と題して、東日本大震災で「釜石の奇跡」と呼ばれた釜石東中学校在学当時の津波避難体験をもとに、防災、減災の在り方について御講演されました。メディアでは知ることのできない震災体験の生の声は、参加者の心に深く響くもので、なかには涙する参加者も見受けられました。

研修会の後は懇談会を開催し、一年間の労をねぎらうとともに、会員相互の親睦を図りました。

甲種防火管理再講習開催（後援）

甲種防火管理再講習が八戸消防本部において2月26日（水）に開催されました。



消防法により防火管理者を定めることになっている防火対象物のうち、一定規模以上の防火対象物の防火管理者は、5年以内ごとの再講習が義務付けられています。そのため、対象者の知識・技能の更新を図ることを目的とし、八戸消防本部が主催、後援として当協会が手伝いし毎年開催しているものです。

今回は61名の方が受講し、講習会の最後には、参加者全員に修了証が交付されました。



各部会研修会

八戸部会

八戸部会前期研修会は令和元年9月20日（金）きざん八戸を会場に開催しました。



北向部会長挨拶

今回は、青森地方気象台より濱浦俊悦氏をお招きして「防災気象情報等の活用について」及び八戸消防署 第一消防隊長 坂本淳消防司令による「北海道胆振東部地震に伴う緊急消防援助隊の活動報告」の2部構成で行い、研修会には67事業所、会員82名と八戸消防署管内職員34名の総勢116名が参加しました。

濱浦氏の講義を聴講した会員、職員ともども災害から身を守るために防災気象情報を効果的に活用し、自らの命は自らが守る意識を持つことの重要性を再認識することができました。

また、平成30年9月6日（木）に発生した北海道胆振東部地震に伴う緊急消防援助隊の活動については、現地に派遣された隊員の視点からの

現状と経験に報道では知れない活動の裏側事情を興味津々に聞き入り、更なる防災意識の向上と官民お互いの連携の必要性を確認しました。

研修会後は同会場で総会を実施、役員改選が行われ、新役員が滞りなく選出、承認され、懇親会では災害が無いように祈念し、参加者一同親睦を深め、有意義なひと時を過ごすことができました。



後期研修会は八戸東部会と合同で実施し2月3日（月）、4日（火）に消防本部5階の研修室において普通救命講習会を開催しました。



2日間で149名が受講。救命救急のスキルを学び、救命の連鎖の重要性を理解するとともに、勇気を持って行動ができるよう参加者に訴えました。

八戸東部会

令和元年度の八戸東部会研修会は9月18日（水）に、当協会齊藤会長をお招きし、屋形船新井田丸の船内を会場として部会員21名、消防職員14名が参加し盛大に開催されました。出航に先立ち工藤美登部会長から「震災や火災の記憶を風化させることなく、今後の防災活動に活かしていきたいでしょう。」と挨拶があり、八戸港沿岸を周遊しながら、消防職員や会員の方による関連施設の説明や防災に関する知識・情報について講話が実施されました。

今回視察した沿岸施設には、東日本大震災で津波の被害を大きく受けた館鼻漁港、第三魚市場、東北電力八戸火力発電所等の復興状況や、平成27年11月の火災で焼失した蕪島神社の再建状況を視察しながら防災意識を高めることができました。

施設の説明では、みなと体験学習館、LNG輸入基地、太平洋金属な



工藤部会長挨拶

どの紹介のほか、館鼻朝市での合同避難誘導訓練、津波ハザードマップの具体的な使い方、火災発生メカニズム、秋の火災予防運動の取り組みなどについて、時にはユーモア（国際化時代に対応する部会として、アメリカ某大学を修了した署員の英語での説明（笑））を交えたり、北日本造船の三浦理事からは巨大船が完成するまでの説明を頂いたり（沿岸部から見た船もまたお見事でした）、加えて、〇を酌み交わす交流も盛んに行われました。

参加者からは「内容が非常に有意義で役立った。」「海側からの八戸の風景が新鮮だった。」「このような研修会は初めてで大変良かった。」「なごの声が多く聴かれました。」「なごの最初の研修会（天気にも恵まれ正に最高の船出でした）でもあり、参加者一同、今後も相互に協力し合っ



三戸部会

11月5日（火）に三戸消防署で三戸部会研修会を開催し、14事業所から19名、消防職員5名の24名が参加しました。

研修会では、三戸消防署員を講師として「近年の火災」をテーマに、火災発生メカニズムや、火災の種類及び発生率、中でも、スマートフォン充電器の爆発火災や沖縄県首里城の火災事例などを交えながら、住宅用火災警報器の必要性も共有し、更には火災を予防することの重要性を再認識しながら学びました。



千葉副部会長挨拶

19名が参加し視察研修を実施しました。

今年度の研修会は2年ぶりの視察研修で、八戸市沼館公園緑地北側から発着している観光遊覧船に乗船し八戸港と、開館もない、館鼻公園に隣接する「八戸市みなと体験学習館」の2か所を視察しました。

まずは観光遊覧船。心配された天候も皆さんの日頃の心がけの良さ？か朝からの雨も出港時にはやみ、風、波とも穏やかとなりました。波を切



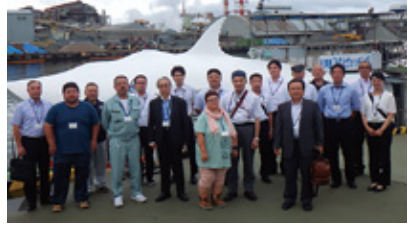
つて進むにつれ、八戸の鳥ウミネコがやって来ると餌をねだり始めると皆童心に帰り、餌の「かっぱえびせん」を自らも頬張りながら、近づいて来るウミネコと戯れつつ、震災から8年5か月経った八戸港の復興の様子を普段見ることのない逆の海側から視察しました。そして、誰一人エチケット袋を使用することなく無事帰港したのでした。

その後、令和元年7月、館鼻公園に隣接する旧八戸測候所が湊地域の歴史・文化と東日本大震災の津波被害を伝える場として生まれ変わった「八戸市みなと体験学習館」を訪れ、展示物等を見ては、あの8年前の3・11が鮮明に蘇り、一同改めて日頃からの準備が大切であることを再認識して行きました。また、隣接する「ゲ

五戸部会

五戸消防署管内（部会長 下館幸作）では、令和元年8月20日（火）五戸消防署管内8事業所の会員、個人会員及び五戸消防署管内職員の計

レットタワーみなと」にも昇り、陸側からも八戸港の様子を見物していただきました。



研修後は、場所を「アピル五戸」に移して懇親会を開催。あのなんとも奇妙な形をした観光遊覧船に乗船し、八戸の港を別の角度から見れたことに新鮮さを感じ、また、みなと体験学習館で学習したことについて、料理に箸をつつきながら語り合い、より一層親睦を深めることができた非常に実のある研修会でした。



また、2月27日には、アピル五戸において総員19名が参加し、令和元年度事業報告会・研修会を開催しました。

した。研修会は「これからの防災について」と題し、五戸消防署松本署長が講師を務め、近年全国において自然災害が猛威を振るっていることから、いつ、誰が被災者になっても困らないために、身近にあるアウトドアグッズこそ防災用品として代用できることに目を向け、自分愛用のアウトドアグッズを所狭しと持ち込み、防災にも役立つことをこと細かく説明していただきました。一同感心するとともに職場に戻ったならば是非みんなに伝えたいと声を合わせていました。その後行われた懇親会では、各会員及び消防職員は松本署長から聞いたばかりの講演について会話を弾ませ、非常に有意義で楽しい時間を過ごしました。

おいらせ部会

おいらせ部会では、令和元年度前期研修会を9月4日（水）に実施しました。

今回は、個人ではあまり出向くことのない施設での研修をということで、「NHKあおもり放送局」「青森地方裁判所」「青森県警察本部」を視察研修しました。

おいらせ部会の会員31名、消防職員6名の総勢37名が参加し、おいらせ消防署を出発、「NHKあおもり放送局」からの研修スタートとなりました。

「NHKあおもり放送局」では、

スタジオを見学させていただき、テレビ映像の仕組みやスタジオの様子などが紹介され、カメラやその他の機材にも触れさせていただきました。キャスター席にも座らせてもらい、会員皆で賑やかにニュースキャスター気分を味わいました。終わりに「おかあさんといっしょ」のキャクター、チヨロミー、ムームー、ガラピコと一緒に記念写真を撮ることもでき楽しい時間を過ごしました。



次には「青森地方裁判所」を訪れ、職員の方から裁判員裁判制度についてのお話や会員からの質問を受けていただいたの研修となりました。そのあとには、実際の裁判の傍聴をさせていただきました。殆どの方が初めての傍聴ということもあり、興味深く、真剣な眼差しで傍聴していました。

最後に「青森県警察本部」での研修を行いました。

鑑識の研修では、仕事の内容や機材の説明を受け、実際に指紋や足跡の痕跡等を見せていただき、その精度と刑事ドラマでよく見かける光景に皆で感心しきりでした。



指令センターでの研修では、出動の状況や指令センターの体制などの説明を受け、携帯電話からの110番通報も体験させていただきました。110番通報が入る場所を実際に見ることができたことも皆にとって大きな収穫だったようです。

帰りには、東北町の道の駅「おがわら湖」で買い物を楽しみました。研修終了後

には、おいらせ町の月見旅館で親睦会を行い、有意義な時間を過ごしながら一層の親睦を深めることができました。

